

あひらの文化

発行人
藤井 吉彌
我孫子市寿
2-21-23
04(7185)
1996

第三十三回文化講演会報告

今年度の文化講演会は5月26日(日)アビスタ2階小ホールに教育委員会の来賓ご出席のもと、85名の参加者を集めて開催された。

当日は「飯泉喜雄顕彰碑建設10周年」のテーマで当会前会長・三谷和夫氏の基調講演とパネル講演会(逆井萬吉氏、山本忠敏氏、越岡禮子氏、三谷和夫氏、司会・美崎副会長)の二部構成。休憩時間に男声コーラスグループによる「鉄道唱歌」などの歌の披露があった。以下はその概要である。

第一部 基調講演

I 明治時代以前に常磐線の旅路を通行した人々

我孫子を通行した人たちの足跡

鉄道のなかった昔、いろいろな人たちが東北方面への往来を通じて我孫子を通行した。以下説明する。

(1)アテルイと坂上田村麻呂

奈良時代、朝廷の支配

が東北地方にもおびてくると、蝦夷(えみし)は自らの土地と名誉を守るため、アテルイらをリーダーに団結し、789年に押し寄せた朝廷軍を巧みな攻撃で破り、大きな打撃をあたえた。大敗した朝廷では第2回遠征の準備に取りかかり、約10万人の大部隊を派遣。蝦夷軍は大きな損害を受けながらも、胆沢の本拠地を守り抜い



たが、802年、坂上田村麻呂を征夷大將軍とする第3回朝廷軍が派遣されると、アテルイはついに降伏した。坂上田村麻呂は、蝦夷に信望の厚いアテルイらを活用したいと考え、朝廷に助命を願ひ出た。しかし願ひは聞き入れられず、アテルイらは処刑されてしまった。

アテルイと田村麻呂は我孫子を通ったかどうか？田村麻呂は将兵らと共に京都を出発し、我孫子を経て石岡に行き、それから海岸線ではなく、久慈川を上つて福島県に入り、東北に向かった。また帰路は田村麻呂はアテルイを伴い、その道を逆行して帰京したと思われる。証拠となるものは残っていないが、我孫子を通つたものと私は考える。

(2)平将門

実際に平将門は我孫子に来たことがあるのだろうか？湖北の日秀地区には将門神社や将門の井戸、日秀観音、首曲がり地蔵など将門と関連付けて語り伝えられているものが沢山ある。

この地域に将門伝説が存在することは、のちに相馬氏が東国の英雄である将門と同族であったことを強調する意図があったと考えられる。将門の乱の史実とは別に、将門の伝説が生まれ、それが地域の人たちにより守られ、継承されてきたことが、時代の様相を示す貴重な史実であるといえる。現在、我孫子の日秀地区では桔梗の花を植えない(将門を裏切つたのが桔梗御前という女性だったと伝えられるため)、キュウリを輪切りにしない(断面が、将門や相馬氏の紋である九曜紋に似ているため)、成田山に参拝しない(成田山は将門調伏のため設けられたと伝えられているため)などの習慣が伝えられている。

将門は若い頃、京に上り、藤原忠平に仕えて帰国した。このとき東海道を通っているから、我孫子を通行したと思われる。また将門の叔父たちと争い、京から召喚の官符が届いたときも、上洛して事件の経緯を陳弁したので、その往復にも我孫子を通行したことが考えられる。我孫子との関連をいえば、日秀観音の本尊の観音菩薩は将門の守り本尊といわれている。その写

真をコピーしたものをご覧いただきたい。

また将門神社の現在の祠は、小さい仮の姿のように見える。『湖北村誌』にある茅葺きの写真の姿であったものを、敗戦後に生活に窮した人たちが、勝手に社殿に住みこんだことがあつて、火災などを心配した氏子たちが協議の上、一旦社殿を解体し、各部材を保存したが、その後社殿復旧に至らず、その後小さい石造りの祠を築造した。もう一度本格的に社殿を建設してはどうかと思う。

(3)源義家

我孫子市内には青山、岡発戸、下ヶ戸、湖北台などに八幡神社がある。古来言い伝えられてきたところによれば、康平年間、八幡太郎義家が奥州征伐のとき当地二本榎に宿営し、そのあとに「八幡大菩薩」と書かれた白旗が残されていたのを発見して奉祀し八幡神社と称したという。

源義家は勿来の関で有名な歌を詠んだ。

吹く風をなこそその関と思へども

道もせに散る山桜かな

これは昔中学校の教科書に載せられていたもの思ひ起す。このとき京から東海道を下つて来た義家は、恐らく我孫子を通り石岡に至り、そのあと海岸線の常磐線の陸路を北進したと思われる。このことから歴史上この陸路を初めて通行したのは源義家であつたと言えそうである。後三年の役は1087年に終わったが、朝廷はこれを私戦とみなして恩賞を与えなかつた。義家は私費により従軍した将兵に恩賞を施したといわれている。この義家の恩義に感じて義家の四代あとの源頼朝が100年後の1180年に平家打倒の兵を挙げたとき、関東の多くの将兵たちが頼朝のもとに馳せ参じたとも言われる。

(4)源頼朝

「これより布佐郷」と記した標柱が成田街道沿いにある。布佐は古代から確認できる歴史ある町である。不思議なことに我孫子市内には源頼朝公のゆかりの伝承をもつ史跡が幾つもある。市内寿にある子之神大黒天には頼朝の病んだ足腰を、夢枕に現れた子之

権現の化身が柵の一枝をあてて直した話、また、沼へりには鎌倉道と伝わる古道が断続的に残り、布佐の和田前は頼朝の家臣、和田義盛の隠れ里といわれている。さらに近くの勝蔵院には和田氏の墓と伝わる碑もある。

これら伝説の真否は定かではないが、かつて布佐には「頼朝公手植の松」と伝わる傘松があった。新堀家所有の農地の中に立派な枝ぶりも整った松で、『東葛飾郡誌』にその姿は古幹幡竜のごとく樹容頗る奇なりと記され、元は6本の松が点在していたとある。四方枝葉が低く広がり、「千歳の松」とも呼ばれた名木だったが、昭和50年代に松喰虫の被害にあい枯死してしまっ

た。頼朝の挙動に案内役を務めたのが千葉常胤ではなかったかと私は思う。常胤は将門の叔父である平良文の六代あとにあたり千葉氏二代の武将で、頼朝の奥州藤原攻めには当地の兵たちを率いて平泉に赴き、大変手柄を立てたようだ。そして福島県相馬の地に恩賞を受けた。今日、相馬というと福島県を思う人が多いが、本来、古代から我孫子、取手の地域を相馬と呼んでいたのが、のちに福島県相馬ができたのだ。

(5) 相馬重胤

鎌倉南北朝時代の武将、相馬重胤は奥州相馬氏の祖と呼ばれている。相馬常胤から五代あとの相馬師胤の子である重胤が、元亨三年(1323)岡田氏・大悲山氏らの一族とともに下総国相馬郡から陸奥国行方郡に下向した。元弘三年(1333)七月後醍醐天皇の綸旨をうけて所領を安堵された。建武二年(1335)、南北朝内乱が始まると北朝側に属した。同年所領を子の親胤・光胤に譲り、翌三年惣領代の光胤に命じて小高の防備を固めさせ、斯波家長に従って鎌倉に赴いたが、陸奥国司北畠顕家の軍勢に敗れ、同年四月鎌倉の法華堂下で自害(法名、天叟)した。

相馬重胤は奥州下向の前に、増尾(柏)の城主だったと言われる。少林寺を創建したとも伝えられている。奥州下向のち南北朝の動乱の時代となり、再び鎌倉に赴いたが、いずれの場合も我孫子を通行し、常磐

線の径路を北進し、また南下したと考えられる。鎌倉で自害したあと、その首を家臣が携えて奥州を目標したが、敵側の地を通行するのは難しく、柏の増尾で少林寺に葬った。それで少林寺には相馬重胤の墓がある。

福島県の相馬では今も野馬追祭が7月に行われているが、これは相馬氏の先祖である平将門の野馬を敵兵に見たてた馬の訓練に倣ったものと言われる。この野馬追祭を見学に当地の人たちが常磐線を利用して往復したことがある。現在は原発事故のため常磐線が一部不通なのは残念である。

現在相馬市と流山市は姉妹都市として交流しているが、これは福島県の相馬で「相馬流れ山」という民謡が歌われていたことが縁になったという。しかし相馬氏はもともと我孫子周辺に居を構えていたから、我孫子市が相馬市と姉妹都市になってもよいのかも知らない。今となつてはなんともできないが。

(6) 参勤交代

江戸時代のはじめ、三家の水戸光圀は参勤交代することはなくて江戸に詰めていたが、何度か水戸へ往復した。その昔、水戸街道は我孫子から布佐へ行き、北進して水戸に向かった。この途中に東我孫子に一里塚が今も残っている。元禄のころから取手宿へ利根川を渡ることになった。

相馬重胤の子孫の相馬氏は戦国時代も生き残り、江戸時代には6万石相馬藩としてずっと明治まで続いた。この間、参勤交代で文字通り常磐線の径路を江戸へ往復した。

伊達政宗で始まる仙台藩は62.5万石の東北の雄藩として、またその華麗な挙動はいわゆる伊達者と呼ばれて親しまれた。参勤交代の大名行列は1000人を超えたもので、その通行には我孫子宿など宿泊はしなかつたが大変な騒ぎだったと思われる。

江戸時代、東北諸藩の藩主は参勤交代で自藩と江戸を往来したが、途中我孫子を通じた。我孫子宿は江戸から約12時間で到達した。

「水戸土浦道中絵図」の作者土浦藩主の土屋篤直は、

宝暦八年(1758)9月11日、大勢のお供を引き連れ、早朝に江戸小川町の上屋敷を発った。夕方には我孫子宿に到着したが、かなり雨が強いので、ここに止宿することになった。我孫子宿は、日頃は問屋場に宿継ぎの人馬が出入りする程度で、前後の小金宿や取手宿とは異なつて、参勤交代などで街道を上り下りする各藩の領主達の定宿にはなつていなかった。当夜の我孫子宿、特に小熊郷右衛門邸は、篤直ら一行の突然の来訪で、忙しく賑わつたことだろう。

またここに1833年水戸藩の九代藩主徳川斉昭が藩主となつて初めて水戸に入部するときの行列の図がある(土浦市立博物館蔵)。帰国の行列の一隊を描いたもので、行列の総勢は1000人を超えたとはいわれ、水戸道中の沿道をさぞ沸かせたことだろうと思われる。

II 鉄道の開通

「汽笛一声、新橋をはやわが汽車は離れたり…」、明治5年最初の汽車が走った。各地に鉄道が通じ、明治29年に、日本鉄道土浦線(今の常磐線)が開通。この鉄道計画に各地で賛否の声が出た。野田、流山では反対、松戸、柏、我孫子では賛成。原料・製品を船で輸送していた野田の醤油、流山の味噌は脅威を感じたといわれる。しかし反対運動を確認する資料は見当たらず、俗説に過ぎないように思われる。

平成10年頃、我孫子では、鉄道用地を無償提供して、駅の誘致に献身した飯泉喜雄を顕彰する市民運動が起きた。現在、当時の機関車を模した碑が、駅前で人々の心をなごませている。

III 我孫子町の発展

明治34年には成田線が開通し、我孫子は交通の要地となった。明治の後半には我孫子駅前に生糸工場、山一林組ができて生産を始め、明治末には山一林組の生産高は業界四位にまでなった。

明治40年に島田久兵衛の別荘ができてから、嘉納治五郎・杉村楚人冠らが次々と別荘を構え、我孫子は別荘地として広く知られることになった。大正に入ると、同3年に柳宗悦・兼子夫妻が新居に住み、つづい

て志賀直哉、武者小路実篤が住居を建てて活動し、文士村の観を呈し、「白樺村」と呼ばれたことは、よく知られている。引き続き村川堅固東大教授が別荘をつくり、中勘助、滝井孝作らが寄寓し、関東大震災のあと楚人冠が一家をあげて我孫子に住むことになる。多くの文化人が活動して、貴重な作品を物した跡が現在、史跡や記念館として残されている。

ついでに私のささやかな体験をここでお話ししたい。二月の寒いころ深夜に、私は松戸から我孫子市天王台の自宅まで歩いたことがある。終電の松戸止で降りたのは、酒の酔いもあつて戯れに歩いて家まで帰ろうと思つたのだ。初めは線路上を歩いたが、歩きにくいので国道に出た。一時間で小金に着き、2時間で柏に着いたが少々疲れを感じたものの、そのまま歩き続け、3時間で我孫子駅に到着した。空腹と疲労で階段に坐つて休憩。あと30分ほどで始発が出るので、それに乗ろうかと思つたが、ここまで歩いて来たのだし、やはり家まで歩こうとの思いが己を制した。途中千鳥足に腰かけてしばらく休んだり。5時ごろ自宅にやつたことでもたどり着いた。その後電車の窓から歩いた道を眺めながら、「電車は速い」とつくづく実感した。

IV 顕彰碑建設

我孫子駅が開設してから100年、我孫子市民は我孫子駅開設に功績のあった恩人飯泉喜雄氏を殆どの人が知らなかった。逆井萬吉氏は『我孫子市史研究10号』に我孫子駅誘致の経緯を論文として発表した。それを読む人も少なかった。そこで「飯泉さんの恩を忘れないよう碑を建てよう」という運動を起した。

我孫子の文化を守る会などが言いだしつゝとなり、発起人116人を集めた。市内の団体として我孫子市商工会、あびこガイドクラブ、我孫子青年会議所、我孫子ロータリークラブ、我孫子ライオンズクラブが中心となり、「飯泉喜雄顕彰碑建設の会」を設立した。

目標額は250万円、募金の基本姿勢は1口1000円のお願ひ。10万、20万など高額な寄付はお断り

し、なるべく多くの人にとりう考えた。顕彰碑にはタイムカプセルを埋め、その中に協力者名簿(筆書き)、感想文などを収めた。100年、200年後にオープンした時、その時の市民はどう感じてくれるだろうか？平成15年5月14日に落成除幕式を開催、飯泉喜雄氏墓前に報告した。寄付してくれた方の全員の名前を記載した「建設記念誌」を作成、協力者全員に配布、図書館へも寄贈した。その後、毎年5月14日有志の集いを行なっている。

さらなる詳しい話は第2部の討論会で行うのでここでは省略する。

碑の面に彫られた碑文の最後に、「私たちは氏の先見の明と奉仕の精神に満腔の謝意を捧げ今こそ街を愛する精神を奮い起こそう」とある。私たちは100年前、また10年前のことをもう一度思い起こし、その歴史を回顧して、よき街づくりに努めなければいけないと思う。(終わり)

第二部 パネル討論会

明治20年代の我孫子の状況

〔司会〕明治29年に我孫子駅ができませんが、その当時の我孫子町はどんな状況だったのでしょうか？

〔二谷〕明治になって、我孫子はすっかりさびれていくわけですよ。諸大名の参勤交代による通行もなくなつたのです。江戸時代を通じて永い間我孫子宿として栄えた面影ほとんど薄れてしまいました。(省略)

明治17年には明治天皇が我孫子を通行され、ここで一泊されました。これは我孫子にとって歴史的な大事件といふべきでしょう。

〔司会〕逆井さん、当時の常磐線の状況はどうだったでしょう？

〔逆井〕常磐炭鉱の石炭や魚介、農産物は、大洗から涸沼―北浦―利根川―運河―江戸(深川)へのルートがありました。運河は鉄道の開通で廃れましたが、最高時は一日100隻の大小の船が通つたようです。木下、布施はたいそう賑わっていました。成田山の文書に「うちもせめて布施の弁天様くらいに賑わえればよいな」と言っていたことが書いてあります。

〔司会〕そしていよいよ我孫子駅誘致の話がでる訳ですね？

〔逆井〕明治27年2月に日本鉄道が川口―土浦―石岡の路線を申請したのですね。直ちに草加、野田、流山が反対運動を起こします。これらの地域は運河など水運が発達していたので汽車不要の立場でした。龍ヶ崎も桑の葉が枯れる、買い物客に逃げられるなどと反対でした。葛飾の新宿は帝釈天参りの客が宿泊しなかなるとこれもまた建設に反対でした。

しかし反対した町や市の鉄道開通後の状況はというと、運河は廃れましたね。そして今度は逆に流山は大正元年、馬橋への路線を申請。野田は明治44年町内を1里ほど走っていた人車鉄道を軽便鉄道として、地元負担の泉宮鉄道にして柏につないでもらいました。龍ヶ崎も同様に後に佐貫への鉄道を申請しました。

〔三谷〕さびれゆく我孫子にとって明治27年の鉄道起工は驚天動地ともいふべき一大快報となつたであろうことは容易に想像できますね。

我孫子駅開設の誘致と飯泉喜雄の登場

〔司会〕我孫子駅ができた経緯について我々は逆井さんの論文で初めて知ることになるのですが、論文を書くきっかけとなつたのは？

〔逆井〕私は昭和48年に我孫子に来て住むことになりました。父が日立精機に勤めていたので我孫子のごとは少しは知っていました。もつと知りたいと思ひ、我孫子市史研究講座生になりました。聴講するだけの会と思つたら、市内の史実を自分で探し、教育委員会発行の『我孫子市史研究』に掲載すること。逃げようと思ひましたが、終わった後の飲み会で顧問の獨協大学部長斉藤先生(故人)に酒を注がれてしまい、その後ズルズルと……利根川秣場騒動や町村合併のことなどを書いているうちに、飯泉喜雄のことを知りました。

〔司会〕昔の話なので調査も大変だったでしょう？

〔逆井〕主に飯泉喜雄の甥にあたる染野喜佐久・登志夫妻から聞き取りをしました。飯泉喜雄には直系の子孫がなく、染野喜佐久さんは喜雄の弟の子(甥)に

あたるわけです。『我孫子市史研究10号』が出来上がった時、私はA3判に拡大して文字を大きくしたものを差し上げたのですが、夫妻から「親類やさまざまなところから、『飯泉家には高野山あたりに広大な土地があったが、全部停車場の敷地にしてしまった。喜雄は汽車を引つ張つてはきたが身上をつぶし家系を絶えさせたとんでもない人』と言われていたが、これで浮かばれる。本当によかった。あの世に行つたらイの一番に喜雄さんに報告する」と泣いていました。私はその時の夫妻(当時喜佐久氏86歳)のことがいつまでも忘れられません。

顕彰碑建設の動き

(司会) いよいよ顕彰碑建設の話になるわけですが？
(逆井) 昭和61年に『我孫子市史研究10号』が発行されましたが、市民はほとんど気づかなかつたようですね。20年近くなつて、市外から我孫子を訪れる人で福島市長に『飯泉喜雄を市で顕彰して』などと手紙を書いた人があらわれるなど、徐々に飯泉喜雄のことが知られるようになってはきましたが…。

(司会) 顕彰碑をつくるきっかけとなつた出来事があつたように聞いていますか？

(越岡) 我孫子の文化を守る会は平成10年前後、村川別荘や我孫子宿名主邸跡の保存運動の中心的存在でした。当時会長であつた三谷さんと私が我孫子市の行政関係の方たちとお話する機会が多々ありましたが、偶々のちに副市長になられた青木章氏と3人で雑談している時に、青木氏から「平成13年は成田線開通100年を迎えるが何かイベントを行なう際のヒントを教えて欲しい」と言われました。私は以前から関心を持つていた我孫子駅開設秘話を披露し、「是非飯泉喜雄顕彰碑の建設を」と提言したのです。

(三谷) 我孫子駅ができて90年ほど経つて、逆井萬吉さんが飯泉喜雄の偉業を詳しく『我孫子市史研究10号』に書きましたが、本日この会場にお越しの皆さんのうち何人が読まれました？(会場の出席者のうち1、2人が挙手)

その論文が出て10年、我孫子駅開設100年を過

ぎて飯泉喜雄の功績に着目する動きがありました。このままでは飯泉喜雄の名は殆ど知られぬままに時が過ぎていくのではないかと、なんとかしなければ、という声が湧き起こつてきたのです。そして我孫子の文化を守る会が顕彰碑建設を思い付き、広く呼び掛けることになつたのです。

顕彰碑建設の会をつくる前に、まず趣意書をつくり発起人を募りました。

(司会) 資料をみると発起人の数が多いですね？

(三谷) とにかく誰でもよい、一口募金に応じて貰えば先ずそれだけでもいいと言つて、広く一般にお願ひしたわけです。我孫子の文化を守る会の役員だけでなく我孫子市商工会、あびこガイドクラブ、我孫子青年会議所、我孫子ロータリークラブ、我孫子ライオンズクラブの5団体にも協力して貰ひ、116人の発起人が集まりました。会設立の発起人というのは「長」のつく人がせいぜい10人くらい名前を並べることが多いですが、この時は夫婦での発起人もあり、誰彼ということなく参加して貰ひ異例な旅立ちとなつた次第でした。

建設の会の会長は当時の我孫子市商工会の井手口会長が適役とかねがね思つていたのですが、井手口さんに「どうしてもダメ！」と言われ、已む無く言い出しつ。の我孫子の文化を守る会で当時会長だつた私が引き受けるハメになつたのです。

募金活動とエピソードや苦労話

(三谷) 募金は一口1000円で広く大勢の人の参加を目的してスタートしました。中には佐野力さん(白樺文学館長、当時)のようにまとまつて30万円(?)ほど出そうとされましたが、丁重にお断りしまして、なるべく大勢にとの趣旨を申し上げました。目標額の250万円に対して100万円ほどまでは割合簡単に集まりましたが、それからはなかなか進まず、色々工夫して各方面に働きかけました。我孫子駅でビラ配り、各種団体やPTAなどにもお願いしました。とにかく建設の会の役員のほか、関係者の協力が得られるようにしたのです。

(司会) 募金集めの具体的なエピソードはありますか？

(三谷) 個人で頑張つて集めた下さつた方も多く、例えば柴田五郎さん(元営林署長、文化を守る会会員)は相当の高齢でしたが、いわば「募金の鬼(?)」とまで呼ばれそうでした。道で会う人ごとに募金をお願いしていました。また山本寛太さん(故人、我孫子短歌会会長は以前、長年月かけて募金活動を努め、齊藤茂吉歌碑(手賀沼公園にある)を建設された中心人物であられた関係で、その苦労がよくわかると言つて、多額の募金を集めて下さつた。いずれも故人となつてしまわれましたが…。そのほかにもこうした篤志家の御協力があつて、結果として300万円を超えるご芳志を頂くことができたのです。

(司会) 越岡さんは募金集めの苦労話などありますか？

(越岡) 建設の会では早々に各役員が決まり実際の活動が始まりましたが、募金活動に話が及ぶと役員から降りたいと申し出る人やその後役員会に出席しないような人も出てきました。当初募金は順調に進んでいたのですが、ある時期、停滞がありました。「広く市民に飯泉喜雄の功績を知つて欲しい、少額でもいいから広く募金を集めたい」というのが建設の会の趣旨でしたから高額寄付の申し出は辞退してしました。また募金活動に対し妨害発言をする人もいて一時不安になつたこともありましたが、募金は1口1000円というものでしたが、この活動がマスコミで紹介されると、毎月1万円を送金してくれた船橋の主婦や匿名で5万円を送金してくれた



篤志家もいました。段々と実現可能な光が見えてきて私自身、ホッとしたことを覚えていきます。

結果としては三谷会長の精力的な活動と市民や6団体の協力を得て碑の建設が実現したと思います。

(司会) お金が集まると今度は具体的なデザインなど顕彰碑づくりとなるわけですが？

(三谷) 顕彰碑づくりは、広く一般に設計費用を含め公開募集しました。その結果4件ほど応募がありました。なかには本を広げた形のデザインなどもありましたが、役員会で充分審議した結果、機関車案に決定されました。井坂石材店にお願いしましたが、井坂さんもこんな碑を作るのは初めてで、実際に作り始めて思い通りにゆかず、石材を新たに再挑戦するなどかなりご苦労があったようです。結果としてはまことに親しみやすく、皆さんに喜ばれる汽車ポップのつた顕彰碑が出来上がりました。ひよっとしたら当初の予算を超えての製作・据え付けではなかったかと思っただけです。

(司会) 顕彰碑は山本さんの設計と伺っていますが？

(山本) 当初の計画では飯泉喜雄の胸像がレリーフを作る予定でした。しかし(飯泉喜雄の縁戚の)岡田さんから提供された写真は残念ながら顔の左半分の3分の1が不鮮明だったので、これをA3サイズに拡大して写真修正と同じ手法(点描)で手を入れました。このようにして出来上がった肖像写真は現在、多方面で使用されています。

しかしこの出来上がった写真ではコンピュータを駆使しても胸像やレリーフ製作は無理だと結論が出て、デザインを公募することになりました。応募作品の中にデパートの屋上にあるようなおもちゃの蒸気機関車らしきものがあり、役員の方々の意見は一時、これに傾きかけました。しかし私が当時神田にあった交通博物館で発見しガイドの使用していた6600型蒸気機関車の写真を示したところ、皆さんの賛成が得られました。(省略)

(司会) いずれにしても皆に愛される立派な記念碑を井坂さんが作ってくれたことになりましたね。

除幕式、そして顕彰碑建設10周年

(司会) 丁度10年前の5月14日に顕彰碑の除幕式が執り行われることになりました。当時の福島市長も出席されていますね？

(三谷) 顕彰碑の除幕式は好天の下、無事盛大に済みました。井坂石材さんは除幕式にわざわざ「くす玉」まで作っていただき、花を添える喜びに接した事でした。設置場所も二転三転して最終的に第一、第二希望地を市長あてに要望書を書いて提出し、当方の第一希望の現位置に決まったのでした。

(逆井) 紆余曲折はありましたが最高の場所に顕彰碑が建立され、丁度10年が経過しました。私としては感無量ですね。

(司会) 5月14日は記念すべき日ですね？

(三谷) そのあと毎年、この5月14日に有志の集いを実施しています。

顕彰碑建設の会としては記念誌を作つて各位にお届けしたあと、会は終了したので本来はもう世話役はいない筈でしたが、旗振り役として私、三谷が「5月14日に碑の前に集まりましょう！」のお知らせを發しました。そして当日は顕彰碑の前で記念撮影をしたあと、近くの喫茶店に移り、小一時間情報交換をし、思いを新たにしたのでした。その集いも今年10年目を迎えました。この10年間不思議な事に一度も雨に遭つた日はありません。今年(平成25年)の5月14日は火曜日で、文学散歩予定の人たちの都合を考えて会報にもお知らせを載せ、9時15分に集合、かつてない大勢で記念写真を撮りました。今回の記念講演会(5月26日)の集いを語り合うなど、有意義なひとときを過ごしました。こうしていよいよ10周年記念行事への思いが盛り上がつていき、今日の日を迎えたのです。

(逆井) 飯泉喜雄がいなかったら、東京から我孫子に来るのは川口から草加か野田まで来て、そこからバスに乗らなければならなかったかも知れません。小さい町我孫子だったら手賀沼は汚染されなかっただろうが、飯泉喜雄にはとても感謝していると、顕彰碑建立記念誌に書いてくれた人がいたが、まさしくそのとおり。我孫子の人たちは飯泉喜雄に感謝すべきと思います。

(司会) 我孫子の町について何かご意見ありますか？

(越岡) 私はいつも残念に思っていることがあります。我孫子市は都心に近く文化や歴史、自然豊かな町ですのに知名度が低いことです。

市民すべてがこの町の良さを周辺や他の町の人たちに発信していかなければいけないと思います。また一般の方はこの町の良さに気がついていないかも知れませんが、我孫子の文化を守る会としては、行政は勿論、他の文化団体とも協力して我孫子の良さを発信していきたいと思っています。昨年から市内の中学生が使用する副読本「我孫子ゆかりの偉人たち」が発行されましたが、これはいい企画だと思います。飯泉喜雄、坂西志保など隠れた我孫子市に功績のあった人が紹介されています。このような本は各家庭にも配布、若しくは販売されたいと思います。

若し全国的に「文学の駅100選」というものが設定されたら我孫子駅は確実にそのひとつに選ばれるでしょう。深田久弥、大町桂月、芥川龍之介(芥川は我孫子駅について書いていないが、同行の小穴隆一が我孫子駅で降りて布佐弁天に向かったことを作品に残している)、志賀直哉、杉村楚人冠、水原秋桜子などの作品に我孫子駅を織り込んだものや足跡が残されているからです。

私は45年前の我孫子駅周辺の屋並みや屋号を殆ど今でも正確に覚えていています。主婦として毎日買い物に行つていたお蔭でしょうか？何年か前に『我孫子みんなのアルバムから』という写真集の発刊に関わりましたので、この土地で生まれた人や古老から昔話を聴きました。生糸工場の写真も数葉あり我孫子駅や停車場道の桜の写っている写真も載っています。

現在は当時とは一変してしまいましたが、私たちの子供たちの故郷ともなるこの町が一層誇りをもって暮らすことができる文化のある町になって欲しいですね。

(司会) 最後に逆井さん何かお話しすることがありますか？

(逆井) 今日の会には染野喜佐久さんの娘さんもご出

席です。重ねて言いますが、飯泉喜雄を取り上げたことと染野喜佐久さん夫妻が喜んでくれたことは本当に忘れることはできません。
(司会) 皆さん、本日はありがとうございました。

平成二十五年総会終了

5月26日、講演会に先立ち、同日午後12時30分から同じ会場で会員25名が出席して平成二十五年の総会が開催された。

- 第1号議案 平成24年度事業報告
 - 第2号議案 平成24年度決算及び監査報告
 - 第3号議案 役員選出(案)
 - 第4号議案 平成25年度事業計画(案)
 - 第5号議案 平成25年度予算(案)
- 議案の説明のあと、出席者から活発な意見、質問もあつたが、すべての議案について原案通り可決承認された。第1号議案は報告事項につき省略し、その他の議案について以下の通り報告する。
- 第2号議案、第5号議案は「別紙」参照願います。
 - 第3号議案 役員選任
 - (会長) 藤井 吉彌
 - (副会長) 伊藤 一男、越岡 禮子、美崎 大洋
 - (幹事) 田口 ふみ、戸田 七支、村上 智雅子、吉田 とし子、斉藤 清一、折原 淳二(新任)、佐々木 侑(新任)、高 康治(新任)
 - (監査) 吉澤 淳一、飯高 美和子(異動、新任)
 - (退任) 田口 仁、若月 慎爾
- 第4号議案
1. 総会、文化講演会(5月26日)
 2. 史跡文学散歩(6、9、11、3月に予定)テーマ・相馬の平将門ゆかりの地を訪ねる
 3. 放談くらぶ(偶数月第1日曜午後)
 4. 文学の広場掲示板への短歌6首掲示(年3回、1ヶ月間)
 5. 「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
 6. 我孫子市の埋もれた文化財に目を向ける

7. 小中学生を対象とした郷土文化の啓発活動
8. 文化活動関係団体との連携協力
9. プロジェクト活動の全員参加を進める
10. ホームページの充実
11. 杉山英先生の業績を多くの市民にPR

プロジェクト報告 プロジェクト関東建築探訪(第17回) 明治期に寛永寺領から芸術文化の拠点に 変貌を遂げた上野

藤井 吉彌

5月8日、爽やかな風吹く上野の森に、芸術・文化の殿堂を訪ねた。まず谷中墓地の幸田露伴の小説「五重塔」のモデルとなった天王寺五重塔跡地を訪ね、在りし日の塔の雄姿を偲んだ。次に徳川慶喜の墓地に詣で、時代の波に翻弄された無念の生涯に想いを馳せ、神式石積の墓に眠る慶喜の御魂に参拝した。

芸大への途上、明治期から営業する吉田酒店(写真)を移築した出桁造りと呼ばれる重厚な佇まいの商家を訪ねた。前土間、揚戸の出入り口など江戸商家の建築様式を伝える貴重な建物で文京区の管理となっており、当時の市民の生活がよく分かる展示となっている。次に博物館通り左右にある東京芸大の音楽学部、美術学部を左右に眺めつつ、明治期の音楽ホール・奏楽堂前を不忍池弁天堂向かう。昼食後再びお山へ戻り国立博物館の構内を見物。本館裏の旧寛永寺庭園、明治期の宮廷建築家片山東熊設計になる重文の表慶館、東洋館、法隆寺館をその特徴等を見て回る。法隆寺館の所蔵品は国宝、重文が綺羅星の如く並び圧巻だ。最後に元気のある人だけで上野のパワースポットへ向かう

上野駅近くに前川国男設計の東京文化会館があり、道を挟んで世界遺産申請中のル・コルビュジエ設



計になる西洋美術館がある。このゾーンは緑濃い上野の森で建築と美術と音楽の最高の作品が味わえるゾーンとなっている。西洋美術館前庭でロダンの「地獄の門」、「考える人」、ブルデルの「弓を引くヘラクレス」などの彫刻を心行くまで堪能し 上野を後にした。

「巨木プロジェクト」第1回、《実施報告》

佐々木 侑

開催日時 6月12日(水) 11時～13時
 開催場所 我孫子北近隣センター(並木)
 参加人数 6名(湯本信康・酒井陽子・斉藤清一・吉田とし子・藤井吉彌・佐々木侑)(戸田七支は欠席)

実施内容 第1回の会合の為、顔合わせ(自己紹介)・巨木プロジェクトの進め方・調査方法など。

*湯本さん、酒井さん 会員に新規加入。

- 1、プロジェクトの趣旨、目的、推進、成果について意見・討議
- 2、活動方法

イ、毎月1回、原則第二水曜日、午前9時～12時、地域ごとに樹木調査。昼食時反省会・次回調査場所決定。

ロ、第二水曜日が荒天候などで樹木調査不都合の場合翌日、又は翌々日に延期実施する。

ハ、樹木調査期間は特に定めませんが、2年～3年の間に市内全域を調べ上げる。楽しく、のんびり、気軽に散策する。

ニ、樹木調査のデータ管理はチーフ(当面は佐々木)がExcel管理する。会報まがいの纏瓦版を3ヶ月毎発行する。

ホ、年間3～4回位、樹木に詳しい専門家の指導を授かる。(参加者の有料参加とし1回2,000円程度の謝礼に充てる)

3、調査方法

イ、「巨木プロフィール」の項目を記入網羅する。
 ロ、測高器の取扱、巻尺の取扱、環境庁基準の樹木

測定方法を確認。

ハ、写真撮影については「巨木・巨樹」及び「名木」の確定までは素人撮り。確定後、中根秀樹さん等に相談する。

ニ、樹木の樹齢、由縁、伝説、歴史などについて寺院・神社・所有者・歴史家・篤志家から聴き取り調査する。

4、問題点

イ、手弁当自己負担で活動するため、会員増員の声掛けを行う。

ロ、プロジェクト費用の捻出。(事務費用は会の通常経費使用？調査に伴う謝礼、協力お礼手土産代、等々)

5、その他

イ、将来、巨樹・巨木ツアーの計画案(日帰りバス旅行：静岡県伊豆市・巨樹巨木林の会)

ロ、この会の略称は「巨木の会」、当面の名称は「我孫子の巨木・名木を訪ねる会」

次回樹木調査

日時・場所 7月11日(木)8時50分、北柏駅改札

出口集合(注意)(第二水曜日ではない)

調査行程 北柏駅→北星神社→東陽寺向廃寺→妙

蓮寺→根戸小近隣森→久寺家旧道→鶯神社→宝蔵寺→我孫子駅

※多くの会員皆さまの参加を期待します(連絡先) 佐々木携帯090-27594-04(25)

第109回史跡文学散歩(報告) 「楚人冠が親しんだ「利根運河」周辺を歩く」

佐々木 侑

3月31日(日)、今年のさくらは都心近郷場所によつては終焉となったが、此処利根運河界隈は見頃の満開、桜花を愛でながらの史跡散歩に参加した。

小雨がぱらつく生憎の天気、この日は東武野田線運河駅から江戸川方面に向けての西コースを往復、行程約6kmである(運河は全長8km、本日はその内の3km)。

利根運河は柏、流山、野田の3市を貫いて東を流れる利根川と西を流れる江戸川を結んでいる運河である。明治21年(1888)工事開始、政府お雇いオランダ人技師ムルデルの計画着手・監督により推進、完成は明治23年(1890)であった。

この運河完成までは東北地方の太平洋沿岸と江戸を結ぶ水運は房総半島をまわるルートと、銚子から利根川に入つて遡り関宿を経由して江戸川を下るルートがあつたが距離と時間を要した。運河完成により、東京・銚子間の直行の汽船が就航し、東京・小名木川・江戸川・利根運河・利根川・銚子の144kmを18時間で結んだそう。とは言え、陸路・鉄道運輸の発達による物流の効率化や、水運事業の衰退により昭和16年以降に終焉を迎え使命を終えている。その後「利根運河」と名称され水辺公園として市民に親しまれて現在に至っている。

うんが(運河) 良かったのか、見廻り開始からほどなくして雨があがつた。まだまだ花冷えの厳しい一日であった。

(写真は割烹旅館「新川」の桜並木。創業明治25年、多くの文人が訪れた文人宿で添田知道、大町桂月、田山花袋、杉村楚人冠などが遊んだそうである)



千葉県観光ボランティアガイド協議会に入会

今回、我孫子の文化を守る会は千葉県観光ボランティアガイド協議会に入会した。我孫子市では「あびこガイドクラブ」「旧村川別荘市民ガイド」など当会を含めて4団体が加入している。5月17日に千葉県観光物産協会で開催された総会には越岡副会長が出席した。

あびこガイドクラブ

『日本の歌「荒城の月」そして3・11以降』

—日本人の求める原風景—

倉田 茂

日本の近代音楽(洋学)は、楽器ではなくまず「唱歌」から始まった(明治14年「小学校唱歌集」)。

その二十年后(明治34年)に滝廉太郎が「荒城の月」(原題「荒城月」)を作曲する。「中学唱歌」の懸賞応募作品として。今も歌い継がれるこの歌の魅力は何だろうか。

「荒城の月」にはまた、山田耕筰による編曲版もある。というより、歌われている殆どがこの編曲版である。

メロディーやリズムなどが大幅に変更されたものを編曲と呼ぶのかどうか。

この百年のさまざまなスタイルの「荒城の月」(注)を楽しみながらこの歌の魅力、作曲と編曲、明治黎明期の歌の事情を考えてみましょう。

(注)藤原義江、竹田市少年少女合唱団、三橋美智也、東京混声合唱団、スコピオンス(独、ハードロックバンド)、ロシア正教のミサ曲、松井康司(バリトン)ほか。

次にイタリア各地やウイーン等での演奏活動が多い幸田浩子(ソプラノ)が始めてまとめた『日本のうた』から、「からたちの花」「翼」「小さな空」「春なのに」「花は咲く」「故郷」などを聴きます。3・11の被災地、被災者、ひいてはこの国土を慈愛でつつみ込むような歌唱からは「荒城の月」と同様、日本の原風景が浮かんでくるようです。

なお、終りの十五分ほどをご出席の皆さまのお話の時間といたしたく、よろしくお願ひします。

今年度会費(二千円)納入のお願い

本会はひとえに会員皆様方の会費によって運営されています。郵便振替口座(00190-3-135476)『我孫子の文化を守る会 伊藤一男』宛お振込みください。

文学掲示板

平成二十五年九月展示作品(文学の広場)

枯葦の雪の重みに悉く
朽つる底ひに芽吹く葦角

緑 鈴木きくえ

底なしと言はれし沼を埋め立てて
物売る店も軒を並べぬ

寿 鈴木 貞子

散歩する道の辺に見ゆる赤マンマ
茂りてその実黒く光れり

印西 鈴木 房子

水鳥の旅立ちゆきて静かなる
沼の辺の道初桜咲く

湖北台 須田 利夫

自然詠の得意な母は利根川の
河原にたちまち歌材拾ひき

取手 関澤喜久子

入相(いりあひ)の渚を鳴ら自在なり
茜に染みて冬を漂ふ

柏 多久和玲子

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和六年夏

馬方の暴秦を説く清水かな

雲の峯魚見の臺に法螺が鳴る

土用刈刈れば葉を巻く茅(ちがや)かな

雹(ひょう)はれて竹の雫の竹の雫のさりげなく

墓(がま)なくや野風呂におつる山明り

立ち寄れば桂の樹なり谷涼し

涼しさやもやひ灯に寄る山の宿

第111回史跡文学散歩のお知らせ

「旧沼南町の将門伝説の地を訪ねる」

手賀沼の対岸、旧沼南町は将門伝説が豊富な処です。将門の愛妾、車の前が朝な夕なに用いた「鏡の井戸」、「車の前五輪塔」、「将門神社」などは良く知られています。他にも「沼の主」と伝わる「黄金の亀の碑」など新しい名所も案内します。

1. 日時 九月二十九日(日)9時〜(小雨決行)

JR我孫子駅南口階段下 十二時半頃解散

2. コース 手賀の杜ニータウンー将門神社ー黄金の碑ー福満寺(手賀沼八景の鐘、鏡の井戸、車の前五輪塔)ー香取神社阿弥陀様板碑

講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)

参加費 会員 無料、非会員 500円

申し込み TEL&FAX (七二八四)二〇四七

越岡まで(締め切り) 9月22日(日)

今後の行事予定

□ 「放談くらぶ」

日時 8月4日(日) 10時〜12時

会場 アビスタ、第3会議室

講師 倉田 茂氏

演題『日本の歌「荒城の月」そして3・11以降』

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

プロジェクト開催予定

「歴史文化くらぶ」

日時 7月6日(土) 14時〜16時

場所 東高野山自治会館(天王台6-2-1)

話者 三谷和夫(本会前会長)

庚申塔(どの町にもある石碑)

「関東建築探訪」

日時 7月10日(水)9時25分我孫子駅発
場所 上野界限(その2)

「我孫子の巨木・名木を訪ねる会」

日時 7月11日(木) 8時50分、北柏駅改札・出口

集合(詳細は別掲)

当会の最近の動き(報告、予定)

飯泉喜雄顕彰碑記念行事

5月14日(月)我孫子駅前建設10周年の
記念写真を撮影

散歩部会

3月31日(日)第109回史跡文学散歩

6月30日(日)、第110回史跡文学散歩

手賀沼部会

3月28日(木)運営委員会(伊藤氏・斎藤氏紹介)

4月7日(日)理事会(伊藤氏・斎藤氏紹介)

6月1日(土)総会

研修部会

4月7日(日)放談くらぶ「柳田國男の青春パートII」

講師 戸田 七支氏

6月2日(日)放談くらぶ「我孫子から見る柳兼子」

講師 海津いな氏

○終了報告

あびこ薬校協議会主催イベント

国際交流フェスタ「楽しく学ぼう!地球村!!」

70名の参加者を得て盛況裡に終了

6月15日(土)アビスタ第3学習室

次回役員会予定

日時 7月14日(日)13時半〜15時半

場所 アビスタ第5会議室

(入会員紹介) 4月から6月の間に次の方々が入会されました。酒井陽子、湯本信康、井上千鶴子(以上3名)

編集後記

鬱陶しい梅雨空が続く、気分も落ち込みがちですが、梅雨明けもそう遠くないことでしょう。▲総会の報告、文化講演会の概要などを掲載したので今回の会報は8ページになりました。▲文化講演会の発言全内容を掲載するのは紙面上無理があり、一部の掲載としました。▲現在、当日の講演内容を別途「講演録」としてまとめた冊子を作成中です。近日中に完成予定。(美崎)